

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006 年度～2009 年度

課題番号：18592379

研究課題名（和文） 糖尿病患者の支援モデルの構築

研究課題名（英文） Constructing A Support Care Model of the Diabetes Patients

研究代表者

永嶋 フミエ（塚越 フミエ）(NAGASHIMA FUMIE)

公立大学法人福井県立大学・看護福祉学部・教授

研究者番号：70227362

研究分野：臨床看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：看護学、糖尿病、生活習慣、文化

1. 研究計画の概要

初年度はインタビューによる患者の状況調査を実施し、2 年目には尺度を作成、3 年には尺度の調整、および実際の糖尿病患者に対するコントロール支援、4 年目には評価をする予定である

2. 研究の進捗状況

(1)目的：長期に糖尿病を抱えてきた人の支援を検討する第 1 段階として療養を含めた生活体験を明らかにする。

(2)研究方法：対象は糖尿病と診断されてから約 20 年以上の男性で、研究協力の得られた人。方法はエピソードインタビュー。場所は A 病院糖尿病外来。分析方法は逐語録をよく読み KJ 法を用いて帰納的に体験をカテゴリー化した。

(3)倫理的配慮：所属する大学および病院の倫理委員会の承認を得て実施した。対象者には文書と口頭で説明し、同意を得た。

(4)結果

対象者は男性 9 名、全員 2 型糖尿病、年齢 43 歳から 83 歳、糖尿病歴 17 年 1 名、20 年以上 2 名、30 年以上 6 名。治療状況は血糖降下剤の服用 5 名、インスリン注射 3 名、HbA_{1c} は 5.8% から 16.6%、全員が何らかの合併症をもち、9 名中 8 名は複数の合併症を抱えていた。

分析の結果【血糖値を見つめる生活】【しぶしぶ続ける治療】【孤独な療養生活】【恐怖の合併症体験】【妻や医療者への依存】の 5 カテゴリーを抽出した。【血糖値を見つめる生活】は、血糖値を見ながら食事と運動量を調整し、コントロールの努力をしているという〔血糖値を目安に調節〕〔運動を動機付ける血糖値〕等 5 つのサブカテゴリーで構成され

ていた。【しぶしぶ続ける治療】は、コントロールが思うようにならない治療に対する不満や治りたいという思いを示す〔納得していない今の治療〕〔治療に対する抵抗感〕等から成り、【恐怖の合併症体験】は、糖尿病の恐ろしさを強く感じていた。【孤独な療養生活】は、他者に理解されないという思いや食べられないと言う飢餓的感情と戦っていた。ほとんどの人が【妻や医療者への依存】していた。

(5)考察対象者は、HbA_{1c} は高い状態にあり、概して血糖コントロールに苦慮していた。

3. 現在までの達成度

④遅れている

インタビューの結果を分析し、その結果を学会で報告したが、尺度の作成が遅れているので、援助の効果が、検査でしか評価できない状況である。

4. 今後の研究の推進方策

支援モデルに基づき支援を継続し、その結果を評価しまとめる。

遅れている尺度を作成する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 1 件)

塚越(永嶋)フミエ：長期療養の糖尿病男性患者の生活体験、第 28 回日本看護科学学会学術集会、2008 年 12 月 13 日、福岡市